国　　語

1　研究のテーマ

(1) 研究のテーマ

新学習指導要領における「現代の国語」、「言語文化」の実施を見据えた、学習指導と適切な評価について

(2) 研究のねらい

新学習指導要領「現代の国語」、「言語文化」の指導事項に基づき、単元で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、指導と評価の研究を行った。

「現代の国語」については、「書くこと」領域における単元の指導計画及び評価方法の検討を行い、実践した。

「言語文化」については、「読むこと」領域における単元の指導計画及び評価方法の検討を行い、実践した。

2　実践事例

【事例１】

(1) 単元の指導と評価の計画

① **科目名**：現代文Ｂ（現代の国語）

② **単元名**：論理的な文章を書こう

③ **単元の目標**：

ア　文、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。
〔知識及び技能〕(1)ｵ

イ　読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ｲ

ウ　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。　〔学びに向かう力、人間性等〕

④　**単元の評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。	論理的な文章を書くことを通して、文章の組立て方や接続の仕方を理解し、自分の考えが的確に伝わるよう、読み手からの助言などを踏まえ、まとめようとしている。

⑤　**単元の指導計画**　ａ：知識・技能　ｂ：思考・判断・表現　ｃ：主体的に学習に取り組む態度

次	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
		a	b	c		
1	○学習の見通しを立てる。 ○意見文を書くための基礎的な知識を身に付ける。 ・あるテーマについて書かれた意見文を読んで改善すべき点をリストアップする。	○			【ａ】文、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	【ａ】チェックリスト(Googleスプレッドシート)の記述の

	・個々でリストアップした改善点をグループ内で共有し、論理的な文章を書くために必要な要素を「チェックリスト」にする。 ※Google スプレッドシートを使用 ・各グループで作成した「チェックリスト」をクラス全体で共有し、一つのシートにまとめる。 ○知識を活用して意見文を改編する。 ・論理的な文章や一貫性のある文章にするためには、具体的にどのように改善したらよいかを考える。 ・「チェックリスト」を参考にしながら、最初に読んだ意見文を書き改め提出する。(意見文①) ※Google ドキュメントを使用					確認、意見文①(Google ドキュメント)の記述の確認
2	○自身の生活と身近なテーマを設定する。 ・「学校にあったら便利な施設」についてアンケートを実施し、賛否が分かれそうな施設を意見文のテーマとして設定する。 ※Google フォームを使用 ○意見文②を書くための「構成シート」を作成する。 ・「学校に○○を設置すべきか。」というテーマについて、600 字程度の意見文を見据えた「構成シート」を作成する。 ※Google スライドを使用	○			【a】文、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	【a】構成シート(Google スライド)の記述の確認
3 本時	○読み手を納得させる意見文にする。 ・個々の「構成シート」をグループ内で共有し、それぞれのスライドに気付いたことや改善点等をコメントする。 ※Google スライドのコメント機能を使用 ・入力された内容をもとに構成や内容を再考する。 ・必要に応じて返信機能に記録を残す。 ○再考した内容を全体で共有する。 ・他者の指摘から自分が考えたことを発表する。(指名された複数名の生徒のみ) ○意見文の体裁を整える。 ・完成した「構成シート」から序論・本論・結論の順に文章をコピーし、提出用ドキュメントに貼り付ける。(意見文②) ※Google ドキュメントを使用		○		【b】読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。	【b】構成シート(Google スライド)、意見文②(Google ドキュメント)の記述の確認
4	○相互評価をする。 ・「チェックリスト」に沿ってペアで意見文を評価し、工夫されている点や改善すべき点について入力する。 ○自分自身の振り返りを行う。 ・意見文を書くときに意識したこと、他者のコメントを通して気付いたこと、考えたこと			○	【c】論理的な文章を書くことを通して、文章の組立て方や接続の仕方を理解し、自分の考えが的確に伝わるよう、読み手か	【c】行動の観察、単元振り返りシートの分析

	など、単元全体の学習を振り返り、自己評価する。				らの助言などを踏まえ、まとめようとしている。	

⑥授業実践例（本時）

学習活動（※指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
１．本時の目標を確認する。 ※前次で出された課題（「学校に〇〇を設置すべきか。」というテーマについて書いた構成シート）に対して、論理の構成を工夫するとともに「説得力のある文章にする」ということを意識させる。 ２．各グループで自分の書いた構成シートを共有し、気付いたことをコメントし合う。 ・それぞれの「構成シート」に、気付いたことや改善点をコメント機能を使って入力する。 ・表現が適切かどうか、論理的で説得力があるかなどを相互に確認する。 ３．他の生徒のコメントを参考にしながら構成・展開を再考する。 ・必要に応じて返信機能を使用し、自分の考えたことを記録する。 ・改善点を踏まえながら、再考した内容を「構成シート」にまとめていく。 ・最初に入力したシートは消さずに、新しいページにまとめる。 ４．他者から指摘された内容と、それに対して自分が考えたこと発表する。(複数名のみ) ５．完成した「構成シート」から序論・本論・結論の順に文章をコピーし、提出用ドキュメントに貼り付けて体裁を整えてから提出する。 ６．今日の学習について、振り返りシートへ記入する。 ７．次回の見通しをもつ。 ※完成した意見文を相互評価し、相互評価をもとに自身の振り返りを行うことを予告し、次回の見通しをもたせる。	【ｂ】読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。（構成シート・意見文②の記述の確認）

研究実施校：神奈川県立相模原高等学校(全日制)
実　施　日：令和３年 10 月 21 日（木）
授業担当者：新谷　智子　教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア　主体的な学び

本単元では「読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ｲ」を目標とし、自分の考えをいかに相手に伝わるように表現できるか工夫しながら、論理的文章を書く活動を行った。その際、Google スライドを使用し、序論・本論・結論とセクションごとにページを分けることにより構成を意識して文章を書き、Google ドキュメントにまとめる際にその効果について実感できるようにするなど工夫をした。その結果、振り返りシートなどにおいて、「今まではとにかく思いついたことや書きたいことを書いていくだけだったが、事前に書きたいことを決めることで、序論、本論、結論の繋がりがよりスムーズに分かりやすく構成することができた。」等、論理的文章において構成を意識して書くことの重要さに気付いた生徒が多く見られた。

題材についても、「学校に第２体育館を設置すべきか」という生徒にとって身近なものであったため、具体的な論拠を示しやすく、なおかつ多角的に検討できた。このことは、それぞれのセクションの主張内容を検討する際にも役立ったようである。こうした身近な題材を扱うことが、主体的に課題に取り組み、論拠を示しながら読み手の理解を得ようとする態度につながった。

イ　対話的な学び

本単元では、「書くこと」の【指導事項　イ】「読み手の理解が得られるよう、論理の展開や情報の重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。」という目標のもとに、生徒が相互に練習文をチェックすることでできた「チェックリスト」を踏まえて意見文を書き、「チェックリスト」を参考に自身の文章を校正するという活動を行った。その際、作成した意見文を他者と共有し、他者の作成した文章に対してコメントを送って評価しあう場面では、自分にない視点や知識・情報に気付き、内容や表現の再考に役立てる様子が見て取れた。また、複数回にわたりやり取りを繰り返しながら文章表現の要点の理解を深めている生徒もいた。

課題として、コメント機能によって共有した内容が、全体へ上手く拡散されず、作成者とコメントをした生徒との１対１での対話となってしまったことが挙げられる。共有した内容を全体で考える場面を設けることによって、より多くの生徒の意見を知り、様々な気付きを得られる可能性がある。

ウ　深い学び

文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について、Google スライドでの分割式の叙述や文章への相互評価を通して理解を深めた。

論理的文章を書く際には、読み手の存在を踏まえ、読み手の理解を得られるように構成や展開、語彙や表現等の検討を行うことが重要である。しかし、自分では文章の構成や論理の展開を工夫したつもりでも、相手に自分の意図したことが正確に伝わっていないという場合がある。そのため、本単元においては、相互評価を効果的に取り入れ、自分の意図したことが正確に読み手に伝わっているかどうかを確認するプロセスを取り入れた。これにより、生徒は、自分の文章は誰かが読むものであること等を改めて学ぶことができたと考える。Google スライドに寄せられた読み手のコメントから、どのように読まれたのか、本意とどのように違うか、その原因は自分の書いた文章のどこにあるのか等を考えたはずである。読み手の読解力の差異もあるだろうが、書き手として文章を見直す視点や技術について学びを深めたようである。また、他者の文章を読むことで、同じ結論でも根拠が多様であること、根拠が同様でも異なった結論があること等、構成や展開の効果について感受し、書くことにいかそうという姿勢をもつこともできた。これらは各セクションを一つにまとめ、全体の構成や展開を推敲する際にも役立ったと考えられる。そして、【指導事項　エ】「目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。」の学びにもつながったと考える。

課題としては、指導事項である、「文章の構成や展開」についてのコメントが見られない生徒がいたことである。内容面に注目するだけではなく、構成や展開について考えることができるような構成シートを、ＩＣＴを活用した授業においても模索していくことが求められる。また、再考する場面においては、他者の意見を反映させた生徒と、反映させなかった生徒がいた。それぞれの意図を記録し、内容について交流することで、よりよい文章の内容や構成を考えるきっかけになると考えられる。今後も、授業実践を通して、単元で身に付けさせたい生徒の資質・能力の育成に努めていきたい。

＊構成シート（生徒の記述）

再考前

序論（６０字程度）

1

学校に第2体育館を設置すべきかどうかというテーマについてだが、私は設置すべきではないと考える。なぜなら、端的に言えばもうひとつの体育館を作るまでの相当な必要性がないからである。

本論（４２０字程度）

2

第２体育館が必要のない理由として、まず県相にもう一つの体育館を設置するための土地がないことや、体育館が２つなくてもそれぞれの部活に十分な時間が与えられていること、また、第２体育館を設置したらたしかに与えられる時間は多くなるが、それを大いに活用してしまったら勉強をする時間がより少なくなり、文武両道では無くなるといったものが挙げられる。

もし今の県相に新しい体育館を置くならば確実に校庭に創ることとなり、野球部が活動しにくくなる。また、プレハブを撤去して、そこに創ったとしてもそこを活用するのはほとんど体育館部活の人たちである。それ以外の人も体育館を使うことがあるが、大体はなにか特別な日などでしか使われていない。

また、体育館部活は土日にはほぼ確実に３時間は活動することができており、たまには５時間と非常に長い時間活動することができる日もあるため、たった一つの体育館でも十分であることがわかる。それでも足りない人は総合体育館に行けば良いのである。

結論（１２０字程度）

以上のことから、第2体育館はあったら少しは楽しくなると思うが、メリットを考えていくほど、その分のデメリットが生じている。それらを含め、全体的に見たらやはりもうひとつの体育館を作る必要はないと私は考える。

再考後

序論（６０字程度）再考後

学校に第2体育館を設置すべきかどうかというテーマについてだが、私は設置すべきではないと考える。なぜなら、端的に言えばもうひとつの体育館を作るまでの相当な必要性がないからである。

本論（４２０字程度）再考後

第２体育館が必要のない理由として、まず県相にもう一つの体育館を設置するための土地がないことや、体育館が２つなくてもそれぞれの部活に十分な時間が与えられていることがある。また、第２体育館を設置したらたしかに与えられる時間は増え、今まであまり活動できなかった部活もより練習をすることができるが、そのためだけに大いなる費用を消費するのであれば、古くなっている県相をきれいにする方に用いたほうが効果的なのではないか、つまり、少数の部活動のためだけに設置するのと、多量の費用を消費するのとでは、割に合わないと考える。

もし今の県相に新しい体育館を置くならば確実に校庭に創ることとなり、野球部が活動しにくくなる。また、プレハブを撤去して、そこに創ったとしてもそこを活用するのはほとんど体育館部活の人たちである。それ以外の人も体育館を使うことがあるが、大体はなにか特別な日などでしか使われていないため、体育館一つで間に合っている。

また、体育館部活は土日にはほぼ確実に３時間は活動することができており、時には５時間と非常に長い時間活動することができる日もあるため、一つの体育館でも十分であることがわかる。それでも足りない人は総合体育館に行けば良いのである。

結論（１２０字程度）再考後

以上のことから、第2体育館はあったら少しは楽しくなると思うが、メリットを考えていくほど、その分のデメリットが生じている。それらを含め、経済面やそれにおいての優先度など、全体的に見たらやはりもうひとつの体育館を作る必要はないと私は考える。

＊コメント（生徒の記述）

●

本論（４２０字程度）

第２体育館を設置することで、部活動時間が増え、確かに勉強時間は減るかもだけど、それは理由にするには厳しいと思う。

●

本論（４２０字程度）

第２体育館の活用はあくまで部活のさじ加減であり、外部活は文武両道できない。というように聞こえる。

●

序論（６０字程度）

現在の設備に不便はないという点で共感できる。

＊振り返りシートの記述

生徒Ａ

○単元全体を振り返っての感想（この単元で身についたと思う力・今後の課題など）

今までは意見文を書くときはとにかく正しい意見を書くことが重要だと考えていて、その他は特に気をつけていなかった。確かに意見文を書く上で意見そのものの正しさは大切なことだが、伝わるという点では、文章の構成や、分かりやすさの方が重要になることもあると気づいた。いくら正しいことを書いていても伝え方が悪かったら受け取る側の印象も大きく変わってしまうと気づくことができた。分かりやすい文章を書けるように意識できるようになったことの1つが、構成を考えることだ。今までは、とにかく、思いついたことや、書きたいことを端から書いていくだけだったが、時前に書きたいことを決めることによって、序論、本論、結論の繋がりがよりスムーズに、分かりやすく構成することができた。また、様々な視点で考えて文章を考えることができた。今までは、主観的な文になってしまうことが多く1つのことについて、長々と書いてしまうことが多かった。様々な視点で考えたり、客観的な視点になって考えることで、文の説得力の増すことに気づくことができた。今回意見文を書いていて、1度目の添削の時に、かなり誤字脱字がかなり多かったので、これから気をつけなければいけないと感じた。それに加えて、接続表現のバリエーションの少なさがとてもツラかった。調べるなどして知っている種類を増やしておくことでより分かりやすい文章が作れると感じた。

生徒Ｂ

○単元全体を振り返っての感想（この単元で身についたと思う力・今後の課題など）

根拠、言葉づかいなどこんなに一つ一つ注意しながら文章をつくったことがなかったので、正直に言うと本当に疲れたし大変でした。私はこの単元で、文章の組立て方が特に理解できたと思います。「序論」「本論」「結論」のそれぞれの役割を理解しながら、つくることを意識しました。それぞれでどんなことを言うのかを決めて、そこから説明を加え、肉づけていくようなつくり方をしたので、文章全体の筋道が通っているということが自然とできていたと思います。また、他の人の意見をたくさんよんで、同じ話題で文章をつくっているのに意見がちがったり、根拠は同じほうが珍しかったり、多くの意見をきくことで自分の視点も増えていくととても感じました。自分は良いと思っても、他の人から見ると良くないということもあるから、二方面から考えられることをどうやったらこっちのほうがいいと決定的に言いきれるのかをもっと考えられるように意識することを今度の課題にしていきたいと思います。ドラえもんのテーマについて考えていたときは、部分ごとに注目したけれど、自分で600字をつくって全体のつながりを意識した文章がつくれたから、これからも、文全体で相手を納得させるようにしていきたいと思います。

【事例２】

(1) **単元の指導と評価の計画**

① **科目名**：国語総合（言語文化）

② **単元名**：『竹取物語』を読んで平安時代に生きる人々の心の機微を捉えよう

③ **単元の目標**：

ア　古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ｳ

イ　作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ｵ

ウ　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

④ **単元の評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	登場人物の視点で短歌を作成することを通して、古典特有の表現を理解し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもとうとしている。

⑤ **単元の指導計画**　ａ：知識・技能　ｂ：思考・判断・表現　ｃ：主体的に学習に取り組む態度

次	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
		a	b	c		
1	○学習の見通しを立てる ・『竹取物語』クイズを行う。 ・『竹取物語』のあらすじを整理する。 ・振り返りシートを作成する。 （Google Workspaceで毎時間記入）					
2	○古典特有の表現を理解する。 ・前段を読み、本章段の作品内での位置付けを把握する。 ・本文の内容と文法事項、登場人物の関係性を整理する。 ○登場人物の心情を整理する ・「３つの問い」を元に本文の大意とかぐや姫と翁の心情をとらえる。 （３つの問い） ①かぐや姫がひどく泣いた理由 ②翁が「我こそ死なめ。」と発言した理由 ③かぐや姫が翁達と共に泣いた理由 （手順） ・個人で読み解く ・ペアで突き合わせる ・もう一度個人で考える	○			【ａ】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	【ａ】ワークシートの確認、観察、振り返りシートの記述の確認

3（本時）	○本文の読みを深める ・本文中の根拠（短歌にしたいところを探し、表現したい心情）と短歌の歌稿をワークシートに書く。 ・短冊に清書する。 ・隣同士で短歌を共有する。 ・短冊を教室に掲示し、各自が投票する。票数が多かったものや表現が秀逸なものを全体の場で共有する。 ○本文の内容を元に、我が国の言語文化について考える。 ・作った短歌を踏まえ、古典特有の表現の特徴についてまとめる。 ・物語における歌の役割を考える。		○		【ｂ】「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	【ｂ】ワークシートの確認、振り返りシートの記述の確認
4	○学習の振り返りを行う ・本単元を学習する前と後とでどのような点が変化したか、また身に付いたかということを振り返りシートに記入し、自己評価を行う。 ・短歌における表現の違いを分析し、文語と現代語の特色の違いや古典特有の表現の特色、短歌ならではの表現技法についてワークシートにまとめる。 ・毎時間記入してきた振り返りシートを見返し、本文の読解や「なりきり短歌」の活動を通じてどのような気付きがあったかを言語化し、単元全体を振り返る。			○	【ｃ】登場人物の視点で短歌を作成することを通して、古典特有の表現を理解し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもとうとしている。	【ｃ】振り返りシートの分析（※毎時の行動の見取りや振り返りを継続的に評価する。単元の最後に記述を総括的に確認する）

⑥　授業実践例（本時）

学習活動（※指導上の留意点も含む）	評価の観点 （評価方法）
１．本時の目標を確認する。 ※前時は本文の登場人物の心情に即して短歌の歌稿を作成したが、本時は「その短歌を作った根拠」「古典特有の表現」を意識させる。 ２．隣同士で短歌を共有する。 ・発表時間は１人３分間とする。 ・ただ短歌を詠むだけではなく、その短歌を作った理由と本文中のどの部分を根拠にしたかについても説明する。 ３．教室に掲示された短歌一覧（Google Classroom にも同時掲載）の中から自分が心惹かれたものを一首選び、Google フォームで投票する。 ※名前は伏せた形で投票させる。	【ｂ】「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 （行動の観察、ワークシートおよび振り返りシートの記述の確認）

４．投票結果を基に代表者が全体の前で代表発表を行う。 ・聞き手は発表を通して気付いたことや文語の特徴などについてメモを取り、振り返りシートに反映できるようにする。 ５．発表の振り返りを行う。 ・文語と現代語の違いや短歌にしたことでの表現効果、登場人物の心情理解をする上でのポイント、物語における歌の役割などについて気付いた点を発表する。 ６．次回の授業内容の予告を聞き、振り返りシートをまとめる。	

研究実施校：神奈川県立相模原弥栄高等学校(全日制)
実　施　日：令和３年 10 月 29 日（金）
授業担当者：前沢　彰祐　教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア　主体的な学び

本単元では、「自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる〔思考力、判断力、表現力等〕」を目標に、『竹取物語』の翁とかぐや姫の視点から短歌を創作した。その際、「全て文語で創作することが難しい場合、現代語を使ってもよい」と伝えていたが、文語での創作に挑戦する生徒がほとんどであった。

その要因として、「なりきり短歌を作ろう」という活動にしたことが挙げられる。翁やかぐや姫に「なりきる」ことで、登場人物の心情や古典の世界観に没入して、本文の行間を読もうとしたことが短歌を文語で書いてみたいという意欲につながったと考えられる。事前に配付していた短歌創作のコツをまとめたプリントや便覧の百人一首等の参考資料があったこと、言葉にこだわって創作するよう伝えていたことも、生徒の挑戦を後押しした。また、創作した短歌の中から心惹かれたものを一首選び、Google フォームで投票する形をとったことで、生徒が意欲的に取り組める活動となった。

また、本単元ではあくまで読み取った心情の表現に主眼を置いた。文法的に正しくない文語の使い方もあったが、文法については評価対象とせず、Google Classroom で提出させている振り返りシートの記述を基に、主体的に学習に取り組む態度を評価した。

イ　対話的な学び

本単元では、「３つの問い」を立てて翁とかぐや姫の心情を捉え、ペアで話し合ってから個人で再考し、その問いを通して考えた登場人物の心情を短歌で表現した。投票の前に、なぜその言葉を選んだのか（例「なぜ月という言葉を選んだのか」等)、どう考えたのかをペアで説明し合い、投票の後は票数の多かった短歌を創作した生徒がその意図をクラス全体に説明して、工夫した部分や読み取った心情を共有した。日頃から短時間のスピーチを授業に取り入れ、全員の前で自分の考えを話せる雰囲気を醸成していることもあり、円滑に発表することができていた。

一方、投票の基準が曖昧になっているという課題も見えた。改善の方策として、投票の前にグループで選定した理由を協議し、自分の選定理由を明確にすることが考えられる。これにより、他の生徒の着眼点や多様な鑑賞方法があるということも学ぶことができると考える。

また、創作した短歌の意図をクラス全体で共有する場面では、説明されて改めて創作の意図が分かったという短歌も多く、票を獲得しなかったものにもそのような短歌があるのではないかと考えられる。グループに分かれ、一人ひとりが創作の意図を説明する機会を設けた上で投票させるなど、自分の読解をどういかしたかを、時間をかけて語る場面を設定することも一つの方法である。その上で、真剣に悩んで考えて選ぶことが、より自分の視野を広げ、考えを深めることに役立つことにつながると考える。

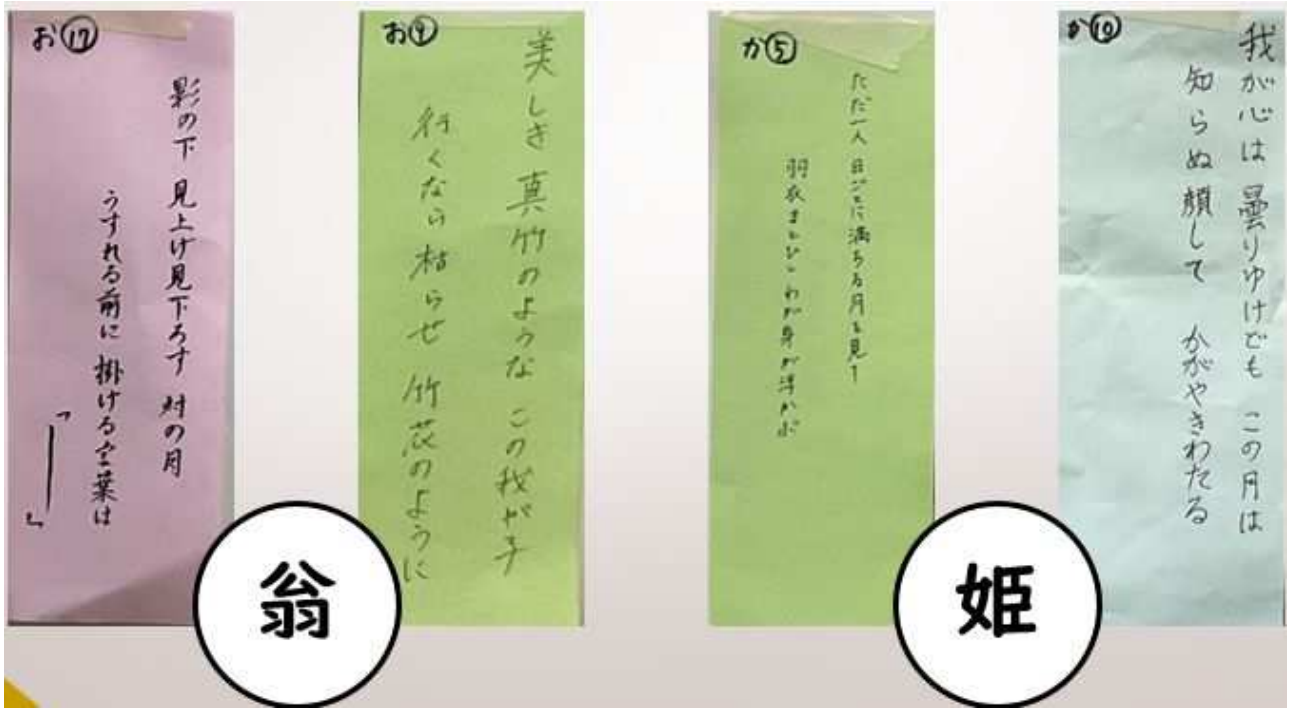
ウ　深い学び

本単元で懸念していたことは、短歌が本文の内容から離れてしまうこと、短歌創作時に考えの浮かばない生徒がいることであった。前者に関しては、全体で確認した「３つの問い」を創作の出発点として設定したため、本文の内容から離れることなく、登場人物に対する心情理解をより深められていた。後者に関しては、個人で考える時間、ペアで共有する時間を明確に設定したことで、自分の考えを構築できていた。単元目標の「我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる」における「言語文化」とは、本単元では「時代によって変わる感じ方・変わらない感じ方を捉えること」を指しており、短歌の創作によって、生徒は捉えることができていた。

文語の響きや味わい、短歌にしたときの意味の広がりや表現などについては、クラス全体に共有する際、教員が生徒の説明に加えて講評することで更に深めることができた。改善点としては、「古典特有の表現などについて理解している」という知識・技能の評価規準に対して、短歌創作のワークシートに既習の知識をどういかしたのかを書き入れられるようにすることが挙げられる。

最後の学習活動の振り返りについては、項目が三つに分かれており、細分化されていることで自分たちの学習の意味付けができていた。また、毎時間の振り返りの「活動の可視化・蓄積」、「ポイントやテーマに立ち返りやすい」という利点が短歌を作る際の支援にもなり、一つのテーマを反芻し、深められる効果的な手法だということを再確認した。

＊　生徒が作った短歌の一例



＊「なりきり短歌」の活動を通した振り返り（生徒の記述より抜粋）

- 読み手に想像の余地を与えるような、読み手を楽しませる工夫があると惹きつけられる。
- 「月」を歌の中に読み込んだ人が多く、この物語の中で月が重要な役割を持っていることを再認識した。
- 一つの言葉にもいろいろな意味が込められていて、色々な読み取り方ができることを知った。
- 泣いている場面はただ泣いているばかりではないことや、登場人物の一言ひとことがそれぞれの人柄をよく表しているということに気付いた。

＊　単元全体の振り返りシート（生徒の記述）

文法や助動詞の意味など理解するのに時間がかかったが、単元全体の目標である平安時代の人の機微はしっかり把握できた。文中の遠回しの表現や泣いた理由など最初はどういう意味か分からなかったが、授業を通して理解し、最終的には登場人物になりきり、短歌を制作することができた。また、個人の目標である登場人物の心情を読み解くのは本文に加えて、短歌を制作したことでさらに深く心情を理解できた。

本文を現代語訳する時に、助動詞の働きを踏まえて大まかな訳をすることができたが助動詞の働きを理解できてない部分もあるので復習を入念にしておきたいと思った。
心情や本文を踏まえて自分の考えを表す機会が多かったが正確に心情等をおさえられていないこともあり、自分の考えを上手く表せていない回もあったので本文を読み込んでいかないといけないと感じた。
後半部分は助動詞の効果や本文の読み込みに注意をしながら取り組んだ為細やかに心情を分析できたがこれが前半部分から出来れば良かったと感じた。

竹取物語の学習を通して、平安時代の人々の心の移り変わりや、かぐや姫の人としての変化や成長について読み取ることが出来た。また、夏休みの宿題でやった古文単語も出てきたけれど、忘れているところが多かったのでテスト前には復習しておきたい。文法のところでは新しい知識も増やすことが出来たし、前期で学んだことも活かしつつ読解に役立てていけたと思うし、ある程度は自分ひとりで訳せるようになったと思う。登場人物の心情から短歌をつくるところでは、他の人の短歌を読むことで自分の中の解釈の幅が広がったし、発表してた人以外の短歌の読解の仕方にも興味が湧いた。自力で古文の短歌を作るのも初めてのことだったけど楽しかったし、百人一首とかももっと学んでみたいと思ったのでまたやりたい。